

白井市 第5次総合計画
基本構想（素案）説明会
報告書

平成26年12月

白井市 総務部 企画政策課
環境建設部 都市計画課

《開催概要》

開催趣旨：

平成28年度を初年度とする新たな市のまちづくりの指針となる第5次総合計画の策定について、これまでの市民参加（住民意識調査、次世代児童生徒のアンケート調査、勉強会やタウンミーティングでのワークショップ）でいただいたまちづくりの意見等から、同計画の基本構想を検討し、その素案がとりまとまったことから、市民へ説明するために開催した。

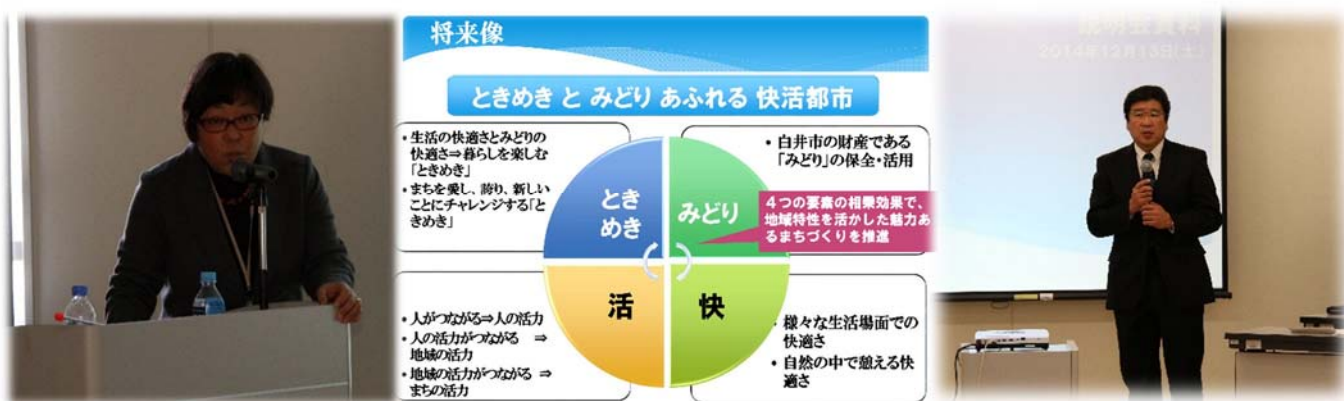
開催日時：平成26年12月13日（土）午後2時～3時30分

開催場所：保健福祉センター3階 団体活動室1～3

参加者：60名

内 容

- 市長あいさつ
- 白井市第5次総合計画基本構想（素案）概要説明
- 質疑応答



●質疑応答【概要】

	参加者からの質疑・意見等	市の回答
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">構想（素案）全体や説明について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想の内容については大賛成である。 市の構想は立派で言うことはあまりない。 すばらしい構想（素案）の説明であった。 構想には、田園風景や農地のこと（保全など）もあり、惹かれる部分があり良いと思うが、この構想がきれいごとにならないようお願いしたい。 	<p style="text-align: center;">—</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 地域に産業をつくって、若い人の働く場があり、自己完結型のまちになるのか、このままベッドタウンのまちにするのか。若い人は、産業、仕事、収入がないので出ていってしまうと思う。 白井市はどちらかという住宅のまちだと思う。自分が住む市についての関心、愛郷心を芽生えさせることが必要でありそれが住みよいまちにつながる。 白井市は地理的に都心と成田の間にあるので、白井市の枠にとらわれず、この地理的条件でどう生きていくのかの視点があつたら良いと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 白井市の地理的な特性は成田空港、都心から30キロ圏であり、羽田空港にも近いということです。このような立地特性の活かし方を考えていきたいと思います。ベッドタウンのままか、若い人などの働く場を多くしていくのかということについても、印西市や鎌ヶ谷市（のように商業施設や企業が多い市）に挟まれ、厳しい状況ですが、このような広域的に考える視点を持ちながら、今後の計画策定の参考にさせていただきます。
	<ul style="list-style-type: none"> これまでも構想を策定するときには、現在の総合計画の状況がどうなっているのかを明記した上で、新しい構想になると思うが、それについてはどうなっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、第4次総合計画後期基本計画は来年度（平成27年度）が最後の年となり、総仕上げしていく時期になっています。今回の基本構想（素案）は今後のまちづくりの方針となります。（これまでとは違い、課題抽出から将来像を導き出すのではなく、）まずは、市の望ましい姿である将来像を皆さんとともに描き、この将来像を実現するための具体的な施策は、今後、現在の第4次総合計画の成果や課題を含め、次のステップである基本計画を策定する際に示していきたいと考えています。

	参加者からの質疑・意見等	市の回答
構想（素案）全体や説明について	<ul style="list-style-type: none"> ・タウンミーティング等のワークショップで北総鉄道の運賃問題についての意見もあったと思うが、どのように考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市としても北総線の運賃問題は大きなものとして認識しています。地域の活性化や利用者を増加させることが大切と考えており、その具体的方策については、（将来像を実現するための具体的な施策や事業である）基本計画や実施計画においてお示ししてまいります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像を実現するための財源はどう想定しているのか？ ・高齢化により、税金はどうなっていくかなど、お金のポイントはやはりしっかりしていかないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政推計は大切と理解しております。現在は人口推計報告書の数字をもとに税金がどうなるかなど順次作業を進めていますが、市では現在、新たな行政改革大綱を策定中であり、財源をどう確保するかなど行政改革の取り組みについて、同時進行で考えていくとともに、公共施設の維持・修繕などの費用についても加味して財政の見通しをたてていきたいと考えております。財政の見通しができたときには皆様にお知らせしてまいります。

	参加者からの質疑・意見等	市の回答
基本理念について	<ul style="list-style-type: none"> 説明資料の児童・生徒のアンケートのトップ5をみると、1位、2位は「事件事故、災害の少ない安全なまち」「子どもたちが元気に遊べる場所があるまち」であり、農業や自然よりも上位である。基本理念に「安心」「健康」「快適」とあるが、ひとつ抜けているのは、「安全」ではないか。また、子どもが遊べる場所もそうである。このことを今後具体的につめていけば良いと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の基本構想（素案）の3つの基本理念のうちの「安心」には、「安全」も含まれた「安心」となります。子どもたちが元気に遊べる場所については、重点戦略の中に「若い世代定住プロジェクト」があり、子育てを安心して楽しめる環境づくりを目指していますので、具体的施策や事業で検討させていただきます。
	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりの理念の「安心」「健康」「快適」は良いと思うが、もう少し夢を語るほうが良いのではと思う。「安心」「健康」という面で、癌の問題がある。2015年には2人に1人が癌で亡くなるということが言われており、癌について具体的対策がとれると良い。高齢化が世界規模で進み、地球社会で必要となる。白井市が先陣を切って取り組んでいけば、世界のモデルになる可能性もある。そうなれば東京オリンピックも今後あるので、「白井市にってみよう」と世界で注目される夢のある計画になる。癌対策の条件整備、基盤整備を組み合わせると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 癌による死亡率については、危惧しているところです。この意見については、基本計画・実施計画策定の参考とさせていただきます。

	参加者からの質疑・意見等	市の回答
重点戦略について	<ul style="list-style-type: none"> 重点戦略に「若い世代定住プロジェクト」があり、子育てを安心して楽しめる環境づくりがある。白井コミュニティセンター主催の事業で「オミパde白井」というお見合いパーティがあるが、子育てをする以前に結婚できない人がたくさんいる。これは深刻なことで、おせっかいおばさんやおじさんが増えれば良いが、何か対策があればと思う。若者・子育てと高齢者が元気でいられる両輪であることが大切だと思う。 子どもや孫と「近居」で安心して住む人も増えている。高齢者と若い人の住みやすい環境づくりがさらに必要。 結婚しない人が増えているのは、生活基盤となる仕事できていないこともあると思う。大きな企業の誘致など若い人の仕事を考えていけば、結婚もしていくようにつながると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 10年後も人口のピークであると推測される65,500人を維持するには、子育てをする以前に、結婚するという事は非常に大切なことと考えます。重点戦略に「若者定住プロジェクト」がありますので、この中で捉えて、どのような施策が必要か、今後皆さんとその施策を考えていきたいと思ひます。
	<ul style="list-style-type: none"> 印西市や佐倉市のように市には大学がないので、若い人が集まる要素がない。若い人が定住するまちというからには大学誘致なども考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い人が集う場所については、様々な人が市内外から集まり、交流を促進する視点として「拠点創造プロジェクト」が重点戦略にありますので、この中で具体策を皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。
	<ul style="list-style-type: none"> 梨畑が何故必要なのか、後継者がいないのなら、何故いないのか、児童・生徒のアンケートも実施しているようなので、そういった児童・生徒に白井市で今後定住したいのか聞いてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5次総合計画策定にあたり、次世代を担う児童・生徒を対象にアンケートを実施しており、その中で大人になっても白井市に住み続けたいかについても聞いています。小学校5年生53.4%、中学校3年生29.6%、白井高等学校2年生は18.8%白井市に住みたいと回答しています。
	<ul style="list-style-type: none"> 工業団地のことについてあまり構想にはふれていないが、若い人などが働けるように等、どのように考えているか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想(素案)の将来都市構造で土地利用や道路軸、拠点などを示しています。工業団地は産業系の市街地ゾーンとして位置づけ、工業団地が活性化するよう、アクセスする道路を考えており、これにより団地内の未利用地へ企業誘致がされるなど、働き場の確保につなげたいと考えています。

参加者からの質疑・意見等	市の回答
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">重点戦略について</p> <ul style="list-style-type: none"> 白井市を白井市たらしめている最も大事なものは、農業の持つ力、特に梨農家の存在であると考えます。東京駅から30キロ圏の市町村で緑地率65%であることや、梨園の面積もトップクラス。将来を展望するとき、これは基本であり、特産の梨をいかに重点品目として振興していくかである。産業振興に財源を充てて力を入れることが必要。今対策しないと手遅れになってしまい、もっと荒廃地が増える。住みよいまちには、自然を最も大切にしたい柱にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 重点戦略の「みどり活用プロジェクト」では、農としてのみどり、産業の梨も含まれます。このプロジェクトの中で具体的施策を今後皆さんと考えていきます。
<ul style="list-style-type: none"> 空き家、空き地について、今後問題になるのでそのような施策が必要。構想素案の中に入れ込むことはできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 空き地や空き家についても課題として捉えております。白井市は（平成20年の住宅土地統計調査で）約2,000戸の空き家があります。ニュータウンのマンションの分譲や賃貸の空き家や農村地区の一戸建ての空き家など、活用できる空き家、安全性に問題のある空き家など、状況はいろいろあるのではと考えます。これらをきちんと整理した上で方向性を見定めていきたいと考えています。

参加者からの質疑・意見等	市の回答
<p>今後の具体的施策等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タウンミーティング等のワークショップで高齢化対策の意見もあったが、どのように反映されているのか。 ・要介護になる前の要支援に力を入れて、できるだけ、健康を持続させることが必要と考える。 ・無償のボランティアだけでなく、ボランティアでもポイント制などのシステムを考えていくことが今後必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在市では、介護支援ボランティア制度があり、ポイント制で65歳以上を対象として実施していますが、若い人も対象となるポイント制のボランティア制度はない状況です。来年度策定する基本計画等で具体的な施策や事業を考えていくときに検討していきたいと考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も高齢者多くなり、納税者が少なくなる。ふるさと納税などをして、ふるさとに誇りを持ち、愛郷心を育て、人の輪を大切にす政策をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税は産業の活性化を踏まえて、現在、実施に向けて準備を進めております。
<ul style="list-style-type: none"> ・住みよいまちというのは、みんな仲良く、穏やかな、和やかな人が住んでいる人がいるまちだと思う。市では梨トレ体操が普及しているが、「白井音頭」もあるので、みんなで歌えるような、和やかな、心がなごむまちにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかな人、和やかな人が多くなれば良いまちになるというのは理解できます。梨トレ体操や白井音頭が皆できるようになれば和やかな、心和むまちになると思います。白井音頭は白井の良いところを歌っています。市の資源の活用という面で、こういった白井音頭などの文化を大切にすることについて、今後の計画づくりの参考にさせていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・元総務大臣の増田氏の研究機関が2040年には800以上の自治体が少子化により消滅するという研究発表をしたが、白井市はどの位置になっているのか、推計データを教えてほしい。また、このような問題に対して、市が専門家を選定してその人の指導で科学的データを積み上げて対策していくと良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究機関の「日本創成会議」で消滅可能性のある自治体が示され、衝撃を受けました。これは2010年から2040年にかけての20歳から39歳の子どもを産む世代の女性の減少率が大きいと、人口維持が困難になるということで、(県内で26市町が減少率50%以上となっている中、)白井市の減少率は約30%と推計されております。このような問題に対応するために、契約しているコンサルタントからのアドバイスや、総合計画審議会でも学識経験者を含めて意見をいただきながら計画を策定しているところです。